



町民文芸

只見短歌会

令和二年九月詠草

大塚栄一

指導

馬場 八智

呆ければ一人居は無理とわかれども日毎忘れることのみ多く

目黒 富子

綾取りにトランプ折紙さて次は孫との遊びは何のゲームかな

渡部ゆき子

梅雨あけて猛暑続きに菜大根時く時期なれど雨は降らずに

関谷 登美子

オンライン自宅勤務に孫と娘もコロナ三密会えず夏過ぐ

新国由紀子

「てあらいうがいししないとコロナでしんじやうよ」と四歳の孫
踏み台を出す

渡部ヨリ子

コロナ禍で口紅さへもしまいおきマスクで覆ふ日々は続きぬ

新国 洋子

娘も孫も店員までも施設より帰りしわれを明るく迎ふ

(出詠順)

只見俳句会

九月定例会

宇多喜代子

指導

都

一穂

夏休み最後の夜の短かさよ

夏暁や地面すれずれ明けて行く

新米餅背負うて一才誕生日

コンバイン操る孫は新農人

浩子

修一

稲の香や親子二代の里神楽

畦道にあふれて重し稲の波

大の字の嬰やの昼寝に雷雨かな

夏雲に向かつて飲む水一気

弘子

幸生

コロナ禍に来るなど伝えちろ鳴く
癒えし目にみずひき草のいとしかり

かたつぶり老いたれば愚痴なかりけり
早生粟を囲み獣に遭うたこと

礼

恒夫

秋立つや小流れよどみなき速さ
野の秋のそこはかとなき葉擦れかな

戒名の一字なつかし白木槿
コロナ禍や壁と向き合い走り蕎麦

